

3度目の“珍客”

＜今月の聖句＞ 「共に労苦すれば、その報いは良い。」
コヘレトの言葉4章9～10節

風過ぎ、自転車の荷台に大きな段ボールをくくりつけていた。すると「園長、どうしたんですか」と、不思議そうに声をかけられた。それもそのはず、炎天一人で汗をかいて、どう見たって怪しい。箱の中身を聞いて、おそろくもっとびっくりしただろう。「アナグマが入っているんです」仕掛けておいた檻に早朝かかっていた。まだ若いニホンアナグマだった。太陽の光をあびてぐったり眠そうだった。私が近づくと寝ぼけまなこから急に目覚め、唸り声で威嚇してきた。

罠にかかったのは、実はこれで3回目。外来生物と違って、アナグマは在来種のため、逃がすのが原則。とはいっても、いまは秋。これから畑は秋野菜のおいしい季節。子どもたちと楽しくいただく前に、また食べられてはたまらない。そこで決めた。戻ってこられないよう、できるだけ遠くに逃がそう。でも、聞けば、アナグマの行動範囲は3キロにも及ぶそう。近くの野山だと、きっと元の巣穴に戻ってきてしまう。自転車で門をでて、南公園、日野小学校、法界寺付近と進み行くもどこも山づたいで、つくしの園庭とつながっている。これではだめだ。意を決し、宇治の炭山まで向かうことにした。

頭から背中、腰まで汗びっしょりになりながらペダルを漕いだ。ちょうど醍醐の山々とは違う稜線の山が見えてきた。道路沿いの金網柵の下方に穴がひとつ開いていた。ここだ！自転車から箱を降ろし、中から檻を出し、穴めがけて仕掛け扉を開けた。いままで唸っていたが、逃げ口を見つけた途端、一目散に走りだした。「もう戻って来ないでくれよ！」と、心の中で声をかけるもずんぐりした体形で山肌を一生懸命走り上る後ろ姿はなんだかとても可愛く感じた。捕り物劇も3度目ともなると、“珍客”との不思議な愛着がいつのまにか芽生えてしまったのだろうか。

(つくし保育園園長 つだかすお)

＜こどもとおとなの日曜礼拝＞
毎日曜あさ10時30分～ 醍醐教会（お庭のチャペル）
どうぞご家族と一緒にお気軽にお越しください。
楽しい聖書のお話、懐かしい讃美歌